

令和4年度及び第3期中期目標期間  
公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果

横浜市公立大学法人評価委員会

令和5年8月

# 目 次

はじめに	1
<b>1 令和4年度の業務実績評価</b>	<b>3</b>
令和4年度の業務実績の総括的評価	4
<項目別評価>	
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	5
II 地域貢献に関する目標を達成するための取組	6
III 国際化に関する目標を達成するための取組	6
IV 附属2病院（附属病院及び附属市民総合医療センター）に関する目標を達成するための取組	7
V 法人の経営に関する目標を達成するための取組	8
VI 自己点検及び評価に関する目標を達成するための取組	8
令和4年度の業務実績評価のまとめ	9
<b>2 第3期中期目標期間（平成29年度～令和4年度）の業務実績評価</b>	<b>11</b>
第3期中期目標期間の業務実績の総括的評価	12
<項目別評価>	
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	13
II 地域貢献に関する目標を達成するための取組	13
III 国際化に関する目標を達成するための取組	14
IV 附属2病院（附属病院及び附属市民総合医療センター）に関する目標を達成するための取組	14
V 法人の経営に関する目標を達成するための取組	16
VI 自己点検及び評価に関する目標を達成するための取組	16
第3期中期目標期間の業務実績評価のまとめ	17

**令和4年度及び第3期中期目標期間  
公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果**

**はじめに**

公立大学法人横浜市立大学（以下「市大」という。）は、国際都市横浜にふさわしい大学として時代の要請に応え、その存在意義を発揮し続けるため、グローバルな視野をもって活躍できる人材や地域医療を担う人材の育成、都市課題や市民生活に密着した課題の解決に取り組み、厳しい社会情勢の中にあっても学生や研究者に選ばれ、市民からより一層の信頼を得る大学を目指している。

令和4年度は、第3期中期目標及び中期計画期間（平成29年度から令和4年度まで）の最終年度であり、各取組の総仕上げの年となっている。

一方、第3期中期目標期間においては、新型コロナウイルス感染症の世界規模でのまん延等、市大を取り巻く環境は急激に変わり、その変化への柔軟な対応を求められた。

法人の業務実績評価に当たっては、このような背景も踏まえた上で、専門的な観点から総合的に評価を行いつつ、市大全体の組織・業務等の更なる改善・充実をより向上させるような意見も盛り込んだ。

市大においては、この評価結果を受け止め、今後市大の特長を更に磨き、市大の質的向上に資する取組を進めることで、自主的・自律的な大学運営の強化を目指していただきたい。

## ■ 法人評価の概要

市大は法人化に伴い、市会の議決を経て市が定めた中期目標の達成に向け、市大自らが策定した中期計画や年度計画に基づいて自主自律的な大学運営を推進することとなっている。また、市大は中期目標の期間（6年間）における業務の実績について横浜市公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）の評価を受けるとともに、各事業年度における業務の実績についても評価委員会の評価を受けることになっている。

評価委員会は、中期目標期間並びに各事業年度における評価に当たって、中期計画や年度計画の実施状況を調査及び分析し、その結果を考慮して総合的な評価を行う。また、その評価結果を市大に通知するとともに市長へ報告し、公表する。

なお、市長はこの評価結果を受けたときは議会へ報告することになっている。

## ■ 主な評価の方針

評価委員会は、主として次のような方針に基づき、業務実績に関する評価を行う。

- (1) 令和4年度及び第3期中期計画の業務実績評価に当たっては、第4期中期目標、第4期中期計画の達成に資するよう、計画の進捗状況を書面及びヒアリング等により確認し、総合的な評価を実施するとともに、市民に分かりやすく公表する。
- (2) 市大の質的向上に資するよう、意欲的な取組を積極的に支援するほか、専門的観点から課題点を指摘するとともに、過去の指摘事項が大学運営に的確に反映されているかを確認する。
- (3) 自主的・自律的な大学運営の実現を目指し、市大全体の組織・業務等の改善・充実を図る観点から、目標設定の妥当性についても検討し、必要に応じて計画の修正を求める。

## ■ 第10期横浜市公立大学法人評価委員会委員（任期:令和5年2月27日～令和7年2月26日）

委員長	板東 久美子	元文部科学審議官
委員	今市 涼子	学校法人日本女子大学理事長
	大久保 千行	元横浜商工会議所副会頭
	大塚 篤	公認会計士
	山本 修一	独立行政法人地域医療機能推進機構理事長

(委員は50音順)

### ・委員会開催実績(令和4年度以降)

令和4年度：5月18日、7月1日、8月1日、8月19日、10月31日、2月27日（計6回開催）

令和5年度：4月11日、7月4日、8月18日（計3回開催）

### ・横浜市公立大学法人評価委員会事務局：横浜市政策局大学調整課

## 1 令和4年度の業務実績評価

## 令和4年度の業務実績の総括的評価

令和4年度は、コロナ禍に加え、国際及び社会情勢の変化、AIなど情報技術の急激な進展等の変化が法人経営にとって大きな影響を与えた1年であったが、先が見通せない中であっても第3期中期計画期間の最終年度として、第3期中期目標の達成に向けて、教育・研究・医療の充実に着実に取り組んだと認められる。

**教育については**、コロナ禍をはじめ厳しい状況の中でも、かねてより取り組んできたデータサイエンス教育、文理融合、医療と他分野との連携など、教育研究力の向上のための取組に成果が表われ、ほぼ指標を達成している。特に、データサイエンスに関する様々な内容・レベルの教育が、全学的あるいは専門の学部・大学院において展開し、充実が図られていることは、市大の大きな特長を形づくるものとして高く評価できる。また、コロナ禍において全学的なDX推進の施策を積極的に行ったことは、大学のステークホルダーのニーズに応えるものとなっている。

**研究については**、Top10論文数などの高レベルの維持、科学技術振興機構「共創の場形成支援事業」などによる学内外連携による研究推進など、研究力の向上が着実に進められてきている。また、研究の質の向上に向けた取組みが、発表論文数、科研費採択率などの成果に表れている。

**地域貢献については**、ボランティア支援室による学生ボランティアの育成・派遣の格段の充実、みなとみらいサテライトキャンパスを活かした地域貢献の展開、地域貢献コーディネーターによる地域社会との連携の強化など、連携のための仕組が様々に機能しつつある。

国際化については、コロナ禍の中、最近3年間は留学生の受け入れを含めた国際協力は困難であったと推察されるが、2年次第2クォータープログラムの設定や、文部科学省の留学生就職促進プログラムの採択など、国際化に向けた努力を重ねていることは評価できる。

**医療については**、2病院の機能をフル活用して、コロナ医療、救急医療、がん医療など社会的要請に応えるべく努力している。がんゲノム医療、最新機器の導入、遠隔ICU支援センターの24時間展開など、医療の高度化にも成果を挙げてきていることを高く評価する。特に、新型コロナウイルス感染症対応では、2病院とも神奈川県における高度医療機関として十分に機能しており、地域医療機関のリーダーとしての責務を果たしている。

**経営については**、コロナ禍においても、ガバナンス強化や外部資金獲得等の努力が積み重ねられ、業務・財務は良好に推移してきた。ただ、既に物価上昇などの影響が現れてきつつあり、今後とも経営改善への努力は強化していく必要がある。また、教職員の意識調査において、コンプライアンス関連の意識が目標指標に届かなかったことは残念であり、今後も様々な施策を実施し、努力して欲しい。

## 項目別評価

### I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組

#### 【4年度評価】 《評価：A》

年度計画を順調に達成したと認められる。

特に評価できる点（○）や年度計画が達成できていない点や今後期待する点など（●）は以下のとおり（以下同じ）。

#### 1 教育に関する取組 《評価：A》

- FD・SD、高等教育推進センターによる質保証など、教育の質向上の取組や体制づくりが着実に進められており、成果を挙げている。
- ヘルスデータサイエンス博士後期課程の新設の他、全学的なデータサイエンス教育の推進に向けて、カリキュラムの充実に努め、様々な施策がとられている。
- LMS（ラーニングマネジメントシステム）の運用開始、アクティブラーニングの導入率の向上（94.3%）に取り組み、アフターコロナでも教育の質を維持し、学生満足度は85.8%と非常に高くなっている。
- 領域横断プログラムの受講生も指標を上回り、データサイエンス人材育成プログラム、留学生就職促進教育プログラムなどの実施に取り組み、国等から複数の事業認定を受けるなど成果に繋がっている。
- 志願者総数は伸び悩み、目標は未達成であるが、現環境下では設定された目標値が高すぎる面もあり、数値目標の見直しも必要な状況であったと考えられる。

#### 2 研究の推進に関する取組 《評価：A》

- 新型コロナ感染症関連技術の開発を始め、主要学術雑誌等への掲載論文数、科学研究費補助金採択数、並びに共同受託研究数も目標を上回り高く評価できる。
- 本学が主幹として組織した産学連携事業が科学技術振興機構の「共創の場形成支援事業」に採択されたことは、UR Aの体制強化など研究支援体制の強化が身を結んだ結果と考える。
- 先進医療申請件数以外は目標を大幅に超える成果を上げている。
- 科学研究費補助金獲得支援の体制が整備され、科学研究費補助金採択件数が大きく増加しているなど多くの指標を達成しているが、研究推進の取組を進めることで、さらに高い成果を達成できると期待される。

## Ⅱ 地域貢献に関する目標を達成するための取組

【4年度評価】 《評価：A》

年度計画を順調に達成したと認められる。

- 地域志向科目の充実や、ボランティア支援室の活動の結果、ボランティア派遣数が非常に大きくなっていることは特筆に値する。
- コロナ禍の中、エクステンション講座数は目標値を上回る実績をあげるほか、横浜市との連携として教員地域貢献活動支援事業（地域実践研究）の推進、大学・都市パートナーシップ協議会を通じた活動など、地道な努力を行っている。
- みなとみらいサテライトキャンパスの活用については、さらに様々な可能性が考えられるところであり、今後の取組の進展を期待したい。

## Ⅲ 国際化に関する目標を達成するための取組

【4年度評価】 《評価：A》

年度計画を順調に達成したと認められる。

- コロナの影響により取組を進めることが困難となった時期もあったが、当年度においては第2クォータープログラムの構築による渡航プログラムの改善など、4年度の学生派遣プログラムを着実に軌道にのせたことは評価できる。
- 海外からの留学生については、今後産業界における人材獲得競争が高まると考える中、留学生就職促進プログラムを新たなプログラム開始も含めて推進しており、今後が期待される。



## IV 附属2病院に関する目標を達成するための取組

### 【4年度評価】 《評価：A》

年度計画を順調に達成したと認められる。

#### 1 医療分野・医療提供等に関する取組 《評価：S》

- 救急医療・感染症医療が最大数値を記録する中、遠隔ICU支援センターを24時間365日体制にするなど、必要な医療を効果的に提供できる体制づくりも前進させている。
- がんゲノム医療については、連携病院としての患者受け入れを進めていることに加え、附属病院ではがんゲノム医療拠点病院の指定の申請を行うなど、積極的な挑戦を行ってきたことを高く評価したい。（※注…R5.4.1指定）
- 救急医療応需、災害時医療に関して体制強化を図り、着実に成果を上げてきた。手術件数の増加、平均在院日数の減少などは、本年度の目標数値を上回っている。
- コロナ禍の混沌とした状況にも関わらず、目標を達成したことは賞賛に値する。

#### 2 医療人材の育成等に関する取組 《評価：A》

- 医師・看護師の確保を進めるだけでなく、医師の働き方改革やチーム医療の推進、働きやすい環境作りを様々な面から進めている。
- 優秀な初期臨床研修医の確保と育成のための様々なプログラムの充実に努め、初期診療研修医のマッチング率100%達成している。
- 特定行為研修の継続など、看護師、コメディカルスタッフ、事務職員の育成を進めるべく、研修制度を含めて様々な施策を行なった。
- 医師の働き方改革等の実施に向け、労働時間短縮の推進、医師事務作業補助体制加算の獲得、チーム医療の推進など、働きやすい環境作りに、引き続き取り組む必要がある。

#### 3 地域医療に関する取組 《評価：A》

- 登録医療機関数17%増加であり、紹介率、逆紹介率は高くなっている。一部に未達成指標はあるものの、地域病院と連携、病院間ECMO連携等、地域に貢献している。
- 地域の医療機関従事者向けの研修会、市民向けの医療講座などを実施した。地域医療を前に進めるべく様々な施策を行い、成果をあげていることは評価できる。
- ウェブ初診予約の拡充や、転院調整システムの利用拡大など、様々な取り組みにオンラインを積極的に活用しており、今後のさらなる拡大を期待する。

#### 4 先進的医療・研究に関する取組 《評価：B》

- 新規治験件数は安定しており、研究支援の新たな取組みとして「よろず相談室」を開催するなど、臨床研究や治験の受け入れの増加に努力している。
- 附属病院の臨床研究中核病院としての承認が得られなかったのは残念。特定臨床研究は、大学病院に求められる重要な使命であり、今後の奮起を期待したい。
- 再生医療の実現を目指す、基礎研究から臨床応用に向けた橋渡し研究（トランスレーショナルリサーチ）を推進する体制の構築に向けても、附属2病院と医学部との連携強化が望まれる。

## 5 医療安全・病院経営に関する取組 《評価：A》

- 医療安全の研修受講率 100%を維持している。また、患者のリスク評価、早期のSW（ソーシャルワーカー）との連携が行われるほか、クリニカルパスの使用率が上がるなど、患者サービスの向上が図られている。
- データ分析による経営が行われている。2病院連携や他病院との情報交換が行われている。患者の平均在院日数も順調に減少し、当初の目標を達成している。

## V 法人の経営に関する目標を達成するための取組

### 【4年度評価】 《評価：A》

年度計画を順調に達成したと認められる。

### 1 業務運営の改善に関する取組 《評価：A》

- コンプライアンス推進担当、ダイバーシティ推進室の設置などが着実に進められているが、多様な人的資本を重視した経営は重要であり、教職員のエンゲージメントの強化やダイバーシティ推進の取組については、さらに課題の抽出ときめ細かな施策の推進が望まれる
- 大学の知名度、ブランドランキング等では目標数値に届かない状況が続いている。18歳人口が年々減少していく中で、目標数値の見直し、広報も含めた新たな戦略が必要であろう。
- 内部監査体制の確立が急務と考える。

### 2 財務内容の改善に関する取組 《評価：A》

- 新型コロナウイルス感染症対策による影響を受けながらも、産学連携や文科省関連の補助金等の外部資金の獲得、寄附金獲得への体制も強化し、更に、事務改善により管理的経費の削減にも努めている。
- もともと財政の自由度が低い中で経営改善に向けた努力が見られる。
- 大学部門については、物価上昇による経費増で法人化初の赤字となったが、今後ともそのような経費増の可能性があることから、コスト削減や収入増の取組をさらに進めていく必要がある。

## VI 自己点検及び評価に関する目標を達成するための取組

### 【4年度評価】 《評価：A》

年度計画を順調に達成したと認められる。

- 自己点検、評価を適切に実施し、年度毎に行われる法人評価委員会、学内経営審議会の外部理事からの指摘事項や意見を適宜活かすとともに、中間評価や認証機関の評価を踏まえ、第4期中期計画の策定を行っている。

## 令和4年度の業務実績評価のまとめ

市大から提出のあった令和4年度業務の実績報告書等に基づいて、評価委員会は書面審査及びヒアリングを実施し、次の項目に沿って調査・分析を行い、総合的に評価を行った。

### 【評価の基準】

- S・・・年度計画を上回って達成している、または達成の難易度が高い計画を順調に達成している
- A・・・年度計画を順調に達成している
- B・・・年度計画を十分には達成できていない
- C・・・年度計画をほとんど達成していない

評価項目	法人自己評価	評価委員会評価
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	A	A
1 教育に関する取組	A	A
2 研究の推進に関する取組	A	A
II 地域貢献に関する取組	A	A
III 国際化に関する取組	A	A
IV 附属2病院(附属病院及び附属市民総合医療センター)に関する目標を達成するための取組	A	A
1 医療分野・医療提供等に関する取組	A	S
2 医療人材の育成等に関する取組	A	A
3 地域医療に関する取組	A	A
4 先進的医療・研究に関する取組	B	B
5 医療安全・病院経営に関する取組	A	A
V 法人の経営に関する目標を達成するための取組	A	A
1 業務運営の改善に関する取組	A	A
2 財務内容の改善に関する取組	A	A
VI 自己点検及び評価に関する目標を達成するための取組	A	A



**2 第3期中期目標期間（平成29年度～令和4年度）  
の業務実績評価**

### 第3期中期目標期間の業務実績の総括的評価

第3期中期目標期間は、超高齢社会の到来、グローバル化の更なる進展、新型コロナウイルス感染症による感染拡大、国際情勢の変化など目まぐるしい変化の6年間であった。このような中であっても、計画に掲げた目標を達成するために全教職員が一丸となり、教育、研究、地域貢献、国際化、附属2病院及び法人経営の各分野について、スピード感と改革・改善の意識を持って取り組んできた。

**教育については**、首都圏初となるデータサイエンス学部の創設・学部再編をはじめとする新たな体制整備に始まり、後半はコロナ禍をはじめとする様々な困難な事態への対応が求められる激動の期間であったが、横断的な教育の展開、全学的な質向上の取組が着実に進められつつあり、多くの目標を着実に達成し、大学法人の根幹である教育体制の充実ができた。特に、デジタル時代に求められる人材育成に関しては、様々な対象・レベルにおいて幅広く展開しており、全学的な特色・強みに高めてきていることは高く評価できる。

**研究については**、我が国全体で研究力の低下が言われる中、産学連携の大型事業の採択数や主要学術誌への論文掲載数の増加、さらに科研費採択率も大きく増加する等、目標指標を大幅に超える成果を達成し、研究力の着実な向上が進みつつあることを評価した。

**地域貢献については**、地域志向科目の全学生必修化やボランティア数の増加、地域コーディネーターの配置や教員地域貢献活動支援事業の活用、さらにみなとみらいサテライトキャンパスの開設など、地域貢献のための体制整備や多様な活動の展開に努力した。特に学生が地域貢献の担い手として活躍していることは評価できる。

**国際化については**、コロナ禍の影響はあったものの、学生が海外で学びやすい環境整備や留学生の就職支援プログラムなどに積極的に取り組んでおり、今後の国際化の加速の基盤づくりが進みつつあると評価した。

**医療については**、コロナ禍にも関わらず、ほぼすべての目標を達成している。がんゲノム医療連携病院の指定、遠隔ICUによる連携推進等の高度先進医療機能の充実を努めつつ、転院調整支援システムの導入等による地域医療との連携の強化、患者サポートセンターの開設といった患者本位の医療への取組が推進されている。加えて、医療人材の育成・確保にも着実に取り組み、医師の働き方改革への対応も進めている。さらに、コロナ対応にも注力し、大学病院、高度急性期病院として充実した医療機能を果たしていることは高く評価できる。

## 項目別評価

### I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組

#### 【第3期中期目標期間評価】 《評価：A》

中期目標を順調に達成したと認められる。

特に評価できる点（○）や年度計画が達成できていない点や今後期待する点など（●）は以下のとおり（以下同じ）。

#### 1 教育に関する取組 《評価：S》

- 社会情勢の変化に柔軟に対応し、データサイエンス学部の新設、学部再編、みなとみらいサテライトキャンパス開設等、未来志向の施策を次々と実施してきたことは評価できる。
- 特に、デジタル時代に求められる人材育成に関しては、データサイエンス学部・研究科、全学教育プログラム、社会人教育など、様々な対象・レベルにおいて幅広く展開しており、全学的な特色・強みに高めてきていることを高く評価する。
- ポリシーやカリキュラム見直しを行うとともに、学部教育、大学院教育の改善も着実に進めている。領域横断プログラムも充実し、学生満足度も高く、何より大学法人の根幹である教育体制の充実ができています。

#### 2 研究の推進に関する取組 《評価：A》

- 学内の分野連携とともに、産学官・学外連携による広がりのある研究事業も進められており、今後さらにこのような多様な連携による研究の活性化を期待する。また、知財専門職の配置、研究・産学連携推進センターの設置などが行われている。
- 大学発ベンチャーの創出、他大学との共同研究も推進するなど大きな成果と進捗を示したことを評価する。
- 先進医療の申請件数（がん関連）がわずかに未達である。今後の申請件数増について検討をされたい。

### II 地域貢献に関する目標を達成するための取組

#### 【第3期中期目標期間評価】 《評価：A》

中期目標を順調に達成したと認められる。

- 全ての指標を確実に達成している。地域実践研究も着実に伸びており、横浜市とも様々な連携をしていることを評価する。
- みなとみらいに開設されたサテライトキャンパスは、多様な役割を果たしうると考えられ、社会との結節点や協働の場として今後様々な活用に挑戦することを期待している。
- エクステンション講座については、特に、市との連携講座の伸び悩みが見られる点、方針転換も含んだ検討が必要と考える。

### Ⅲ 国際化に関する目標を達成するための取組

#### 【第3期中期目標期間評価】 《評価：A》

中期目標を順調に達成したと認められる。

- コロナの影響で留学関係の指標が未達となったのは残念であるが、その中でオンラインプログラムの充実、交換留学先、協定先の拡充など、将来に向けての施策を着実に取り組んだことを評価する。
- 交換留学先や海外協定校の増加によって令和4年度に、第2クォータープログラムによって渡航した学生が100名を超えたことは大いに評価する。

### Ⅳ 附属2病院に関する目標を達成するための取組

#### 【第3期中期目標期間評価】 《評価：A》

中期目標を順調に達成したと認められる。

#### 1 医療分野・医療提供等に関する取組 《評価：S》

- コロナ禍で求められる医療の提供について、ダイヤモンド・プリンセス号への対応から始まり、大学病院として大きな役割を果たした。その上で、一般診療との両立についても最大限の努力をしてきたことを高く評価する。
- がん治療に関して様々な先進的取組を行い、「がんゲノム医療連携病院」並びに「がんゲノム医療拠点病院」の指定を受けたことは、高く評価できる。
- 救急応需件数の増加、入院患者の在院日数及び外来患者数の適正化など医療提供についての取り組みを推進し、大学病院として附属2病院で連携しながら、医療機能の充実と高度医療の提供を行った上で、指標を達成したことを高く評価する。

#### 2 医療人材の育成等に関する取組 《評価：A》

- コロナ禍の混乱の中でも、専門医の育成、臨床研修医の確保・養成、専門・認定看護師の育成、病院運営をマネジメントする職員の育成などに努め目標を達成していることを評価する。
- 地域医療を支える医師の確保と育成を図るため、初期臨床研修医の採用に積極的に取り組み、ほぼ毎年マッチング率100%を達成してきたことを評価する。
- 働き方改革などで働きやすい環境整備も進めつつ、タスクシフト/シェアなどの取り組みについて今後一層の推進を期待する。

#### 3 地域医療に関する取組 《評価：A》

- 病病連携、病診連携、看看連携等に積極的に取り組み、地域包括ケアを踏まえた診療体制の整備にリーダーシップを発揮した。大学病院としての機能を維持しつつ、患者サポートセンターによる病病連携の推進や地域医療機関との連携が推進され、地域の拠点病院としての活動が継続的に行われていることを評価する。
- 地域医療従事者への研修、職員研修会、病院実習の受入体制の充実、市民向け医療講座の充実、広報機能の強化などに努力していることを評価する。
- コロナ禍の混乱の中でも着実に目標を達成してきた経験を踏まえ、更に病院間のネットワーク・連携が多面的に進展することを期待する。



#### 4 先進的医療・研究に関する取組 《評価：B》

- コロナ禍で息の長い取組が求められる中、より高い水準の医療の向上・提供を進めている。特に、先進医療に関する研究は着実に進められ、基礎研究から臨床応用に向けたトランスレーショナルリサーチ推進の体制整備も進められつつあることを評価する。
- 先進医療申請件数が目標に届いておらず、臨床研究中核病院の申請取り下げをせざるを得ない状況にいたったことは大変残念である。特定臨床研究は、大学病院に求められる重要な使命であり、これをバネとした今後の取組の加速を期待する。

#### 5 医療安全・病院経営に関する取組 《評価：S》

- コロナ禍で病院運営が極めて混乱していた中であっても、患者相談体制の充実や病床の効率的運用の推進、また医療安全文化の醸成と体制の拡充などに取り組んだことは特筆すべき点である。過酷な状況の中、附属2病院の職員一人ひとりが高い目的意識を持ち続け、地域の医療のため責務を全うしたことについて敬意を表する。
- オンラインを活用した患者家族との情報共有などに努めるほか、患者サポートセンターを開設して相談体制を充実するなど、コロナ禍の混乱の中でも患者満足度の高い水準と考えられる。
- 病床の効率的運用、適切な料金設定の検討、人件費管理、医療機器・医薬材料等の購入など2病院の連携強化が行われている。また、課題をプロジェクトによって解決し、データ分析による効率的な経営を実現していることを評価する。
- 臨床倫理コンサルテーションチームが立ち上がっているほか、医療安全についての講演会の出席率も高い。また、個人情報の適正管理にも努めている。

## V 法人の経営に関する目標を達成するための取組

### 【第3期中期目標期間評価】 《評価：A》

中期目標を順調に達成したと認められる。

#### 1 業務運営の改善に関する取組 《評価：B》

- コロナ禍の中、SNS活用、テレワークの導入、ガバナンス強化と出来る施策は着実に実施し、ガバナンス強化の組織体制やダイバーシティ推進体制の構築に取り組んできていることを評価する。
- ダイバーシティの推進については、達成指標として「女性教職員の管理職の%」ではなく、もっと具体的な施策についての数値目標を指標として立てた方が、より詳細な状況判断が可能になると考える。目標達成に向けてさらに効果的な推進方策の構築を期待する。
- 人材育成、人事制度、コンプライアンス推進等に課題を残した。監査体制の明確化などコンプライアンスの一層の推進が望まれる。
- 大学からの情報発信や、大学ブランドイメージや知名度を上げるための広報を含めた施策が脆弱なので、今後を期待したい。

#### 2 財務内容の改善に関する取組 《評価：A》

- もともと財政の自由度が低い中で、外部資金の獲得、病院経営の改善など様々な努力がされており、物価高騰という環境においても、収支均衡を保ち財務内容が良好に保たれてきたことを高く評価する。
- ファンドレイザーの雇用、大学基金設置等により、外部資金獲得にこれまでにない成果を収め、今後の財務改善に大きな前進を示したことを評価する。また、経費削減の努力をしたことも評価する。
- 令和4年度からの急激な物価高騰など経費増加要因があるため、さらなる改善の工夫・努力を期待する。

## VI 自己点検及び評価に関する目標を達成するための取組

### 【第3期中期目標期間評価】 《評価：A》

中期目標を順調に達成したと認められる。

- 第3期中期目標期間の最終年度として、第4期への接続を考慮しながら、厳密な進捗管理を行なっていること、また、計画に対する実績の評価を適時に反映する体制を整えていることを評価する。

### 第3期中期目標期間の業務実績評価のまとめ

市大から提出のあった第3期中期計画期間中の業務の実績報告書等に基づいて、評価委員会は書面審査及びヒアリングを実施し、次の項目に沿って調査・分析を行い、総合的に評価を行った。

#### 【評価の基準】

- S・・・中期目標を上回って達成している、または達成の難易度が高い計画を順調に達成している
- A・・・中期目標を順調に達成している
- B・・・中期目標を十分には達成できていない
- C・・・中期目標をほとんど達成していない

評価項目	評価委員会による過年度評価							法人自己評価	評価委員会評価
	H29	H30	R元	R2	みなし評価	R3	R4		
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	A	A	A	S	概ね順調	A	A	A	<b>A</b>
1 教育に関する取組	S	A	A	S		A	A	A	<b>S</b>
2 研究の推進に関する取組	A	A	A	S		A	A	A	<b>A</b>
II 地域貢献に関する取組	A	S	S	A	概ね順調	S	A	A	<b>A</b>
III 国際化に関する取組	A	A	A	A	概ね順調	A	A	A	<b>A</b>
IV 附属2病院(附属病院及び附属市民総合医療センター)に関する目標を達成するための取組	A	A	A	A	概ね順調	S	A	A	<b>A</b>
1 医療分野・医療提供等に関する取組	A	A	S	S		S	S	S	<b>S</b>
2 医療人材の育成等に関する取組	A	A	A	A		A	A	A	<b>A</b>
3 地域医療に関する取組	A	A	A	A		S	A	A	<b>A</b>
4 先進的医療・研究に関する取組	A	A	A	A		A	B	B	<b>B</b>
5 医療安全・病院経営に関する取組	A	A	A	A		A	A	A	<b>S</b>
V 法人の経営に関する目標を達成するための取組	A	A	A	A	概ね順調	A	A	A	<b>A</b>
1 業務運営の改善に関する取組	B	A	B	A		A	A	A	<b>B</b>
2 財務内容の改善に関する取組	S	S	A	S		S	A	A	<b>A</b>
VI 自己点検及び評価に関する目標を達成するための取組	A	A	A	A	概ね順調	A	A	A	<b>A</b>